



2学期を振り返って・・・

長かった2学期も終わりをむかえ、冬休みが始まりますね。運動会をはじめ、遠足、いもほり、クリスマス会など、2学期は様々な行事がありました。また、毎日の園生活の中では、自分たちで遊びや生活をすすめていく姿が見られました。



さまざまな経験をする中で、自分の力を発揮したり、目的にむかってみんなで力を合わせたり、できた喜びや達成感、充実感を味わい、そのことが次の意欲につながっていったりしました。友だちと経験を共有し、思いを共感する中で、仲間意識が深まってきました。



思い切り体を動かした鬼ごっこやサッカー。遊びに必要なものを作りながら、友だちと一緒に遊んだごっこ遊び。遊びの中でも、考えていることを伝え合って、相談しながら遊んでいく楽しさも味わいました。

ちょっと難しいな…うまくできないかもしれないな…そんなふうを感じることも、まわりの友だちに刺激をうけてチャレンジしたり、自分なりに目標をもってあきらめずに挑戦したりする姿もたくさんありました。

できた喜びを経験して、自分に自信がついたり、「がんばれ!」「もう少しやな!」「すごいやん!」などと、友だちを応援したり励ましたりする姿もあり、さまざまなことに挑戦していく強さも身につけてきたと思います。



友だちとかかわる中では、思いが通じ合わずに悲しい気持ちになったり、自分の言葉や態度で相手を嫌な気持ちにさせてしまったりすることもありました。いろいろな場面に出会い、その中で自分の気持ちと向き合い、行動を振り返ったり、相手がどんな思いをしたのか考えたり、次に同じようなことがあったらどうしたらいいのかなどを考えることを繰り返してきました。「なんで〇〇なん?」「じゃあ、△△っていうのは?」「～ってこと?」などと、自分たちで思いを出し合ったり、相手の気持ちを考えたりしながら、自分たちで乗り越えていこうとする姿が見られるようになり、子どもたちの成長を感じています。

3学期も一人一人のがんばりや成長を認め、みんなで育ちあっているように努めていきたいと思います。



冬休み中、病気や怪我をすることのないよう、健康管理には十分に気を付けていただき、園生活で身につけてきた生活習慣が乱れないよう、支えてあげてくださいね。2学期も温かいご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。3学期もよろしくお願いいたします。

書き初めしたよ! 伝統的な正月行事に親しんでほしいと思い、少し早い書き初めに挑戦しました。正月に書き初めをすると、その年は素敵な年になると言われているそうです。



1回目は私たちと一緒に、2回目は自分で書きました。今だからこそ書ける自分の字で、素敵なものになりました! 3学期に保育室に飾るので、また見ていただこうと思います。



- ・3学期は、1月11日(火)から始まります。詳しくは、園だより「冬休み号」(すぐーるで配信済み)をご覧ください。
- ・冬休み中も健康チェック表への記入をよろしくお願いいたします。

クリスマス会、楽しかったよ！



12月になり、クリスマスバックを作ったり、ばら組と一緒にクリスマスツリーを飾ったりしながら、クリスマス会を楽しみに待っていました。「ばら組のときサンタさんきとったよな」「(ジングルベルのダンス) 覚えとるで！」などと友だちと話している姿もあり、ワクワクした気持ちでいることが伝わってきました。



クリスマス会では、役員さんのパネルシアターを見せてもらい、みんなで『あわてんぼうのサンタクロース』をうたい終ると、♪シャンシャンシャン…と鈴の音が聴こえてきて、サンタさんが登場しました！サンタさんが来たら聞きたいなと考えてあった質問をした後、プレゼントをもらいました。そして、子どもたちからサンタさんへのプレゼントに、ジングルベルのダンスを見てもらい、サンタさんは次の子どもたちのところへ。“おうちに帰るまでプレゼントは開けないでね”というサンタさんとの約束も、みんな守ったようですね。どんなプレゼントだったか、翌日話してくれました。



メリー

クリスマス！！

サンタさんのこと教えてもらったよ↓

○小人たちに手伝ってもらって、一緒にプレゼントを作っているよ。

○トナカイは、トナカイ学校で空を飛ぶ練習をしているよ。

○家の壁に通り抜ける穴を開けられる魔法の道具を使って家の中に入るよ。

名前は、聖（セント）ニコラウス。1700歳。フィンランドに住んでいるよ。





みんなで『ジングルベル』
のダンス！！

ん？これってソリの跡じゃ
ない？！

「朝はこんななかったよね」「もしかしてソリの跡っちゃう？」「これ、トナカイの足跡ちゃう？！」と言ったり、空を見上げたりして、大興奮の子どもたちでした。



ソリの跡！



トナカイの足跡！

サンタクロースの話～目に見えないものの存在～

『心の部屋』という話を紹介します。

「子どもはいつか大きくなって、サンタクロースが本当は誰なのかを知る時がおとずれる。けれども、その子は今まで自分にサンタを信じさせてくれていた周りの大人たちの温かさを知るので。そうして心の中には、サンタがいなくなった後の空間が『心の部屋』として残り、目に見えないものや夢を信じ楽しむ人に育っていくでしょう。そしてまた、次の世代の子どもたちへ『心の部屋』をつないでいく大人になることでしょう」

目に見えなくても大切なものって、たくさんありますね。信じる心をもって大きくなってほしいなと思います。親子にとって宝物のような時をどうぞ大切に、素敵なクリスマスをおすごしくださいね。

